

2. 令和7年度 技術講習会 開催報告

日本音響材料協会



写真1 技術講習会の様子

1. はじめに

令和7年11月27日に開催された技術講習会「主に住宅を対象とした音環境問題の実態と対策」の開催結果をご報告いたします。

会場は、JR秋葉原駅から徒歩3分とアクセス至便なDAIKEN株式会社セミナールームをお借りいたしました。当日の参加者数は42名と満席となり、盛況のうちで開催することができました。

本講習会では、主に住宅を対象としつつも、その他の音環境も含め、多岐にわたる音環境の実態と対策について解説いただきました。一口に「音環境」と言ってもその側面は多岐にわたるため、それらを以下の3つのテーマに分け、それぞれの専門家をお招きし、規格、実際の状況、およびそれに対する対策について詳しくご説明いただきました。

2. 講習会内容

今回の講習会には、3名の講師をお招きしました。

(1) 音に関する紛争の状況と予防の技術

井上 勝夫 氏(日本大学 名誉教授 工博)

井上教授には、音に関する訴訟における根拠法と解釈、判断基準、建築基準法などについて解説いただきました。また、紛争処理センターにおける実態や、実際の紛争事例をご紹介いただきました。

教授は、裁判所の調停員や専門委員としてのご経験から、学術的視野からの受忍限度を示す必要性を感じ

られたとのこと。過去の訴訟事例を基に、将来の日本における受忍限度に対する考え方の一考察を示唆され、今後日本がどのようにこの問題に取り組むべきかについて論じていただきました。

(2) 音環境の保全と遮音性能技術の現状

稲留 康一 氏(奥村組 技術本部 博士(工学))

まず、オフィスの音環境に関して、最近のトレンド、認証制度、満足度、評価制度、およびオフィス内の様々な場所における問題点と対応方法について解説いただきました。

次に、住宅の遮音性確保に影響する法規制や評価方法について解説いただきました。さらに、音の伝搬や透過については、窓、外壁、柱、梁、隙間、コインシデンス効果、木造における遮音・透過といった具体的な事例と対策方法を紹介。対策前後の測定データを示しながら、対策方法の考え方とその有効性について詳しくご説明いただきました。

(3) 住宅を中心とした床衝撃音・設備系騒音の制御技術の現状

鹿倉 潤二 氏(栗本鐵工所 消音技術課)

鹿倉氏には、住宅において問題となりやすい「床衝撃音」と「設備系騒音」の2つのテーマについて解説いただきました。

床衝撃音：基礎知識と、具体例、測定結果、対策製品を交えた対策について解説いただきました。予測方法については、予測計算の概念と計算例をご説明いただきました。

設備系騒音：ユニットバス、便器、エレベーター、立体駐車場といった音源別に、その特性をデータと対策を交えながら分かりやすく解説いただきました。

また、マンションの屋外から室内への騒音対策として、換気口や換気扇を活用した製品が紹介されました。屋外機器の騒音対策事例についても解説されました。

3. おわりに

本講習会を通して、音環境は、法規制、訴訟、規格、基準、場所、部位、音源、予測方法、対策方法など、多岐にわたる側面を持つことが改めて示され、その全体像を理解する貴重な機会となりました。

講義後には、受講者から活発に質問が寄せられ、講師の先生方には熱心にご回答いただきました。これも本講習会の充実度を示すものであり、参加者の皆様にとって非常に有益な一日であったと思われま